

「譲渡会でのペットとの出会い」

次期大統領が決定したばかりの米国では、そのバラク・オバマ氏がホワイトハウスでどんな犬を飼うかが大きな関心を集めているようです。そして、全米が注目するその犬を、彼はシェルターから迎えたいとしています。オバマ氏のペットにまつわるそんなエピソードも歴史的な誕生といわれる大統領の一面として、今後語り継がれるかもしれません。

さて日本でも、飼い主に恵まれない動物たちを保護し、殺処分数を1頭でも少なくするために、動物愛護センターやNPOなど多くの団体がアニマルシェルターを運営し、様々な活動を展開しています。その活動の一つが、保護されたペットに新しい家族との出会いの場を提供する譲渡会です。ペットだけでなく、ペットオーナーにとっても、譲渡会でかけがえのないペットに出会うということには深い意義がありますが、ペット選びという面でのメリットもいくつかあります。

一つは、いろいろなライフステージのペットを検討できること。中には、幼い子犬や子猫の世話やしつけに十分な時間をかけるよりも、ある程度成長した犬・猫を迎えたいと考える人も少なくないことでしょう。あるいは、自分自身のライフステージにあったペットを選びたいという希望があるかもしれません。譲渡会では、たいいてい多様なライフステージの犬や猫がおり、成長してからの身体的特徴やサイズなどがわかった上でペットを迎えるという選択肢も可能になります。ただし、成犬・成猫は新しい環境になれるのに少し時間がかかる場合があるのでそれを十分理解してあげることも必要です。

もう一つのメリットは、譲渡会ではそれぞれの性格や相性を確かめるために十分にペットと触れ合う時間が提供されるということです。人とペットも長く付き合う上では相性も大事なチェックポイントです。また、主催側の専門員と飼育環境や問題などについて話し合う時間が設けられるため、自分や家庭にペットを迎えるに十分な環境が整っているかを知ることができ、ペットオーナーとしての責任を再認識した上で、ペットとの生活を始めることができます。

譲渡会で出会う犬や猫たちのほとんどは一部の無責任な飼育者の犠牲者です。それでも彼らは人を信じる気持ちを忘れずに、たっぷりの愛嬌や賢さを備え、新しい家族に出会えることを本当に楽しみにしています。そして実際、新しい飼い主に出会った多くの犬や猫たちが、深い思いやりと愛情に生まれ、強い信頼関係を築き、大切な家族の一員になっています。

こうした譲渡会の情報は、主催者団体のサイトのほか、自治体の広報誌やサイトなどでも調べることができます。また、一部の団体では、譲渡会だけでなく希望に応じてシェルターでの面会の機会を随時提供しているところもあります。譲渡会は、ペットとの出会いを求めるだけでなく、コミュニティに生きる様々なペットたちの状況や命の大切さを考え、そして、ペットオーナーとしての責任を再認識する場でもあるかもしれません。オバマ氏のおかげで、シェルターやその背景となる社会問題に対する認知が高まることも期待できそうです。そしていつかこうした譲渡会自体の必要性がなくなってほしいものです。

マース ジャパンは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マース ジャパンが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に 1997 年に設立したリサーチセンターである非営利団体コンパニオンアニマル リサーチ (CAIRC) とマース オーストラリアがサポートするコンパニオンアニマルに関わる活動を推進している PIAS と協力して発行しています。